

人材養成および教育研究上の目的

機械工学専攻においては、工学の開発・研究の分野で貢献するため、機械工学における幅広い知識と総合的視野を持ち、論理的思考及び総合的応用能力を有する人材を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞		
工学研究科機械工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士(工学)の学位を授与する。	工学研究科機械工学専攻は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	工学研究科機械工学専攻では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
<p>知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】 機械工学に関する幅広い知識と総合的視野を修得し、それらを研究・開発に活用することができる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 授業科目を体系的に履修し、所定の授業科目について合計30単位以上を修得している。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 材料力学、流体力学、熱工学、機械設計・工作法、機械力学・制御の5つの専修部門の専任教員が、機械工学の基盤となる知識や多面的な視点について、教育過程を編成する。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 講義、演習、ディスカッションなどの様々な方法・形態により実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポート等の成果物、試験の成績および学習態度を評価する。(DP1) 単位修得状況を評価する。(DP1)</p>
<p>技能</p>	<p>【学修成果の目標】 機械工学の専門技術者・研究者として必要な技術、コミュニケーション能力、応用力、課題設定能力、問題解決能力を身に付けている。(DP2)</p> <p>【到達指標】 最終試験で合格の判定を受けている。(DP2)</p>	<p>【求める学生像】 将来、機械工学関連の企業で研究・開発に携わる目標を持っている人、あるいは大学等での研究者を志向する人を対象とする教育を行う。したがって、①機械工学分野の高度な専門技術者・研究者を目指す意欲・熱意にあふれる人、②機械工学に関する基礎的な知識・技能を有している人、③機械工学の研究を行うために必要な応用力と創造性に富む人、を求める学生像とする。</p> <p>【入学者選抜の在り方】 一般入学試験 ・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・福岡大学機械工学科における成績が特に優秀な学生には、飛び級での一般入学試験の受験を認める。 推薦入学試験 ・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学機械工学科の成績優秀者に対しては、面接試験による推薦入学試験を行う。 社会人入学試験 ・書類審査、小論文、面接による社会人入学試験を行う。 留学生入学試験 ・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・日本語および英語コミュニケーション力については、語学検定試験のスコアにより評価する。</p>
<p>態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】 機械工学に関する諸問題の解決に向けて、主体性、創造性、協調性を持って取り組むことができる。(DP3)</p> <p>【到達指標】 最終試験で合格の判定を受けている。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 入学時に決定した指導教員が中心となり、大学院生自ら課題を設定し、その解決に取り組む態度・志向性を涵養するための教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の実施(教育方法・授業形態等)】 専修科目の特別研究ならびに修士学位論文の作成を通して実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学内外における研究報告や学会発表などの状況を評価する。(DP3) 主査と副査による修士学位論文審査(論文審査と口頭試問)を行う。(DP3)</p>

人材養成および教育研究上の目的

機械工学専攻においては、工学の開発・研究の分野で貢献するため、機械工学における幅広い知識と総合的視野を持ち、論理的思考及び総合的応用能力を有する人材を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)		教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞			
工学研究科機械工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（学術）の学位を授与する。		工学研究科機械工学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	工学研究科機械工学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
知識・理解	<p>【学修成果の目標】 機械工学に関する幅広い知識と総合的視野を修得し、それらを研究・開発に活用することができる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 授業科目を体系的に履修し、所定の授業科目について合計30単位以上を修得している。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 材料力学、流体力学、熱工学、機械設計・工作法、機械力学・制御の5つの専修部門の専任教員が、機械工学の基盤となる知識や多面的な視点について、教育過程を編成する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 講義、演習、ディスカッションなどの様々な方法・形態により実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 レポート等の成果物、試験の成績および学習態度を評価する。(DP1) 単位修得状況を評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 将来、機械工学関連の企業で研究・開発に携わる目標を持っている人、あるいは大学等での研究者を志向する人を対象とする教育を行う。したがって、①機械工学分野の高度な専門技術者・研究者を目指す意欲・熱意にあふれる人、②機械工学に関する基礎的な知識・技能を有している人、③機械工学の研究を行うために必要な応用力と創造性に富む人、を求める学生像とする。</p>
技能	<p>【学修成果の目標】 機械工学分野を中心とした学際的研究に携わる技術者・研究者として必要な技術、コミュニケーション能力、応用力、課題設定能力、問題解決能力を身に付けている。(DP2)</p> <p>【到達指標】 最終試験で合格の判定を受けている。(DP2)</p>	<p>【教育課程の編成】 入学時に決定した指導教員が中心となり、他の専攻や研究科の教員等から学際的研究に有効な技能を修得するための教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 専修科目の特別研究ならびに修士学位論文の作成を通して実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学内外における研究報告や学会発表などの状況を評価する。(DP2) 主査と副査による修士学位論文審査（論文審査と口頭試問）を行う。(DP2)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 一般入学試験 ・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・福岡大学機械工学科における成績が特に優秀な学生には、飛び級での一般入学試験の受験を認める。 推薦入学試験 ・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学機械工学科の成績優秀者に対しては、面接試験による推薦入学試験を行う。</p>
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】 機械工学に関する諸問題の解決に向けて、主体性、創造性、協調性を持って取り組むことができる。(DP3)</p> <p>【到達指標】 最終試験で合格の判定を受けている。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 入学時に決定した指導教員が中心となり、大学院生自ら課題を設定し、その解決に取り組む態度・志向性を涵養するための教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 専修科目の特別研究ならびに修士学位論文の作成を通して実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 学内外における研究報告や学会発表などの状況を評価する。(DP3) 主査と副査による修士学位論文審査（論文審査と口頭試問）を行う。(DP3)</p>	<p>社会人入学試験 ・書類審査、小論文、面接による社会人入学試験を行う。 留学生入学試験 ・機械工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・日本語および英語コミュニケーション力については、語学検定試験のスコアにより評価する。</p>